

支那ニ於ケル結核病ノ歴史的研究

醫學士 余

巖

支那ノ醫學歴史ヲ研究シ、四千年來ノ「エムピリー」(經驗學術)成績ヲ世界ニ發表スル事ハ今日重要ナル事デスガ、未ダ爲シタル人ガ無イ、私ハ自カラ菲薄ヲ省ミズ此ノ仕事ニ任セント云フ積リデ、今日演說スルモノハ其ノ豫修研究一部分ノ概要デアアル。

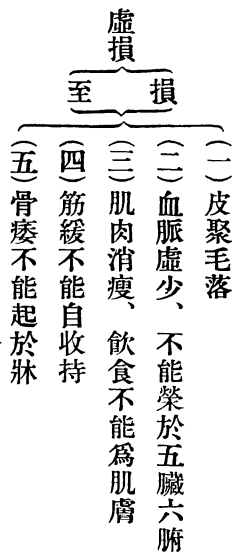
モトヨリ結核歴史中ニ「結核テラピー」ヲモ、入ルベキデスガ、支那ニ於ケル結核歴史ハ、專ラ漢方醫ノモノデ、今日ノ科學的範圍内ニ於ケルモノハ、未ダ舉ルベキモノ無イ様デス。從ツテ、「テラピー」ト云フモノハ、殆ド專ラ藥物療法ニ屬スルモノデアアル、漢藥ノ研究ハ、近頃盛ニナリマシタト雖モ、漢藥ノ範圍カラ見ルト、未ダ千分ノ一ニ達シテ居ナイ、今日吾々ノ漢藥ノ見知ヲ持ツテ、漢方醫ノ處方ヲ批評スル事ハ稍々早計デハ無イカト思ヒマス。是レデスカラ、茲ニハ唯ダ古人ノ結核病ニ對スル觀念ダケヲ調べテ且批評ヲ試ミタノデス。

支那ノ醫學歴史ヲ研究スルニ在リテハ、先ヅ黃帝内經ヲ擧ゲナケレバナラナイ——内經ハ眞ノ黃帝時代ノ著作デハナイガ漢方醫ノ系統ニ於テハ先ヅ擧ゲナケレバナラヌ——然ルニ全部内經ヲシラベテ見テモ結核ト認ムベキ病狀ハ書イテ居リマセン唯ダ素問ニ「大骨枯槁、大肉陷下、胸中氣滿、喘息不便、内痛引肩項、身熱、脫肉、破膈」。「大骨枯槁、大肉陷下、肩髓内消……」ト云フ文句デアリマス。是等ノ症狀ハ亞急性又ハ慢性ノ病氣ニ何レモ來ルモノデ、就中「内痛引肩項」ト云フモノハ肩凝ノ事デ、今日慢性肺結核ノ初期ニヨク出デ來ル症候デアアル、「肩髓内消」ト云フモノハ鎖骨上窩ノ陷

ムト云フ事デアツテ、肺尖萎縮シタモノハ必ず出テ來ル症候デスカラ、稍々結核ニ似テ居ル丈ケデアル。又タ靈樞ト云フ書ニ「欬、脫形、身熱、脈小以疾」ト書イテオル。此ノ病狀ハ餘程肺結核ニ似テオリマスカラ眞ノ肺結核病ト認メテモサシツカヘナイダロラト思ヒマス。

今度ハ戰國時代ノ人デ扁鵲ト云フ人ガアル。其ノ人ハ難經ト云フ書物ヲ書イタ。其ノ中ニ虛損ト云フ病氣ヲ論ジテソノ大別ヲ損病ト至病ト兩大類ニ分ケテ居ル。損病トハ即チ遲脈デ、至病トハ速脈デアアル。此ノ兩類トモニ五ツ症候ガアル。第一ハ「皮聚毛落」ト云フ、コレハ榮養狀態ノ惡イ事デス。第二ハ「血脈虛少」ト云フ、コレハ貧血デアアル。第二ハ「肌肉消瘦」ト云フ。第四ハ「筋緩」ト云フ、コレハ筋肉ノ萎縮ノ結果デ無力ニ成ルノデアアル。第五ハ「骨痿」ト云フ、コレニ至レバ最早起ルコトハ出來ナクテ終日病牀ノ上ニ横ハラナケレバナラナイノデアアル。

是等ノ症候ハ亞急性又ハ慢性ノ病氣ニ何レデモ來ルデスカラ、單ニ結核デハナイ、但シ結核病モ此ノ中ニ存在シテ居ルノヲ斷言スルコトガ出來ル。



漢ノ時代張仲景ト云フ人ガアル、金匱要略ハ仲景ノ書デアツテ其ノ中ニハ虛勞ト云フ病氣ヲ論ジテオル。ソレハヤハリ亞急性又ハ慢性病ノ混合物デ結核病ニ似テ居リマセン。何ゼナラバ彼ノ虛勞ノ症候トシテ「無寒熱」又ハ「脈浮大」ト云フ文句ガアル、コレハ明ニ結核ノ症候デハナイ、又ソノ中ニ「遺精」、「虛煩不得眠」、「精自出」等ハ生殖器性神經衰弱症デアツテ唯ダ「盜汗」ト「馬刀俠癭」即チ瘰癧ト云フ病症ハ結核病ト關係ガアル。

仲景ガ又肺痿ノ説ヲ立テマシタ曰「寸口脈數、其人欬、口中反有濁唾涎沫者何、師曰、肺痿之病、若口中辟々燥、咳

即胸中隱々痛、脈反滑數、此爲肺癰。「欬唾膿血、脈數虛者爲肺痿、數實者爲肺癰」。コレハ肺痿、肺癰ノ鑑別診斷デア
ル。肺痿ハ唐人ノ議論ニ證スレバ確ニ肺結核デア
ルカラ、仲景ノ云フコトハ即チ肺結核ト肺癰トノ鑑別診斷ヲ述ベテオ
ルノデアリマス。

又タ華佗、中藏經ト云フ本ガアル、コレハ僞書デア
ルト雖ドモ、ソノ議論ハ甚ダ面白イ、即チ傳尸ト云フ病ヲ論ジタ曰
「欬嗽不止、或胸膈脹悶、或肢體痿重、或肌膚消瘦、或飲食不入、或吐利不止、或吐膿血……」
コノ文章ハ眞ノ肺結核ヲ論ズルモノト認メルコトガ出來ルダロウトハ私ハ思フ。

中藏經ハ又タ其ノ病ノ原因ニ就テ太ダ面白イ議論ヲ立テタ、即チ

「人之血氣衰弱、臟腑羸虛……鐘此病死之氣、染而爲疾」

ト云フコトヲ書イテオル。コレヲ見レバ中藏經ガ結核病ニ就テ、二ツ要點ヲ發見シタ譯デ即チ、

(一)傳染ノ性質アル事、

(二)素因ガアルコト、

デアリマス。其ノ說ガ今日ノ醫學カラ見テモ間違無キ卓見デア
ル事ハ實ニ感心スベキモノデア
ル。

次ニ晋ノ時代ニ王叔和、脈經ト云フ書物ガアルガ其ノ中ニハ結核病ニ對シテ特ニ舉ゲルベキモノハ無イ。

次ニ隋ノ時代デア
ツテ巢元方、病原候論ト云フ書物ガアル其ノ中ノ虛勞欬嗽ノ一條及ビ五蒸中ノ骨蒸ノ一條ハ肺結核ヲ
シイ。ソノ文句ヲ舉レバ即チ

「虛勞而欬嗽者、臟腑氣衰、邪傷於肺故也、久不已、令人胸背微痛、或驚悸煩滿、或喘息上氣、或欬逆唾血……」

「夫蒸病有五、一曰骨蒸、其根在腎、且起體涼、日晚即熱、煩燥、寢不能安、食無味、小便赤黃、忽々煩亂喘細無力、

腰疼、兩足逆冷、手心常熱、蒸盛過傷內、則變爲疳、食人五藏」

上ニ述ベタル症候ハ餘程結核ニ似テオルガ、尙ホ不完全ノ點ガアリマス。即チ虛勞欬嗽ノ方ハ熱ガ無イ、骨蒸ノ方ハ欬
嗽ガ無イノデアリマス。前者ニハ他ノ慢性氣管枝病又ハ慢性肺病ニモ混雜シテオルカモ知ラナイガ、後者ニハ內臟ヲ食

スルコトガアツテ、此ノ「食」ト云フ字ハ「蝕」ニ通ズルモノデ「消」又ハ「虧毀」ト云フ意味デアルカラ即チ肺ノ空洞トカ腸ノ潰瘍トカアル事ニハ違イナイノデ、私ハコレヲ肺結核ト認メテ宜イト思ヒマス。

病原候論ニハ又尸注ト云フ病氣ガアツテ、コレハ確ニ傳染病ヲ論ジテオリマス。大抵急性傳染病ハ「尸」トシ、亞急性又ハ慢性傳染病ハ「注」トシテオル。但シ注ハ慢性傳染病デアルト云ヘドモ結核ノ様ナ衰弱症狀ハ書イテナイ。此ノ事ニ就テハ少シ奇態ト思ハレルガ、本ヨリ二次傳染ノ慢性結核ハ何時何地デ傳染シタト云フ傳染徑路ハ多ク不明ナルモノデ、其ノ爲メニ傳染病類ニ入ラナクテ、虚勞又ハ骨蒸等ノ下ニ屬スノデアロウ。

コレカラ唐ノ時代ニ入リマス、唐人ハナカノ豪傑モライデス。

孫思邈、千金方ハ其内科ノ分類法ハ今日ニ似テ居ル。即チ臟腑デ以テ分類スルノデアアル。其中ニ欬嗽ヲ大腸病ノ部分ニ屬シ、吐血ヲ膽腑ノ下ニ屬スルノハ眞ニ可笑デスガ、尸注ヲ以テ肺臟病ノ類ニ入ルノハ大ニ意味ガアリマス。即チ古時ハ交通機關ガ不便デアツテ傳染病ノ種類ガ少ナイ、傳染病トシテ見ラレルノハ急性結核即チ有馬博士賴吉ノ報告シタ所ノ處女地結核ノ様ナモノガ多カッタダロウ。孫氏ハ高壽デ閱歴ハ深い、經驗ハ富ンデ且ツ神仙ヲ學ンデ居ルハデスカラ、頭腦ハ冷靜デアアル。彼ノ觀察ニヨレバ古人尸注即チ傳染病ト云フモノハ肺ニ來ルコトハ多イト認メラレテ、其レデ肺臟病ノ類ニ歸入スル譯デアアル。

王燾ハ外臺祕要ト云フ書物ヲ作りマシタ。前ニ述ベタル巢氏病原候論ニハ骨蒸ト云フ病氣ヲ虚勞ノ類ニ入レテオルガ、王氏ハコレト反シテ骨蒸ヲ尸注ノ上ニ冠シタ。ソレハ王燾氏ノ觀察デハ骨蒸病ノ傳染ノ性質アルト云フコトヲ知テ虚勞類ニ入ルコトハ不適當デ傳染病ニ屬スベキト云フ意味デ、即チ諸多ノ慢性衰弱病ヲ傳染性ト非傳染性トニ明ニ鑑別スルハハ必要ト云フコトヲ認メラレテオル。彼ノ書中ニ引イテ來テ居タ諸家ノ議論ヲ精讀スルト、王氏ノ主張ハ一層明ニナル。次ニ舉ゲル所ノ廣濟、張文仲、救急、崔氏別錄及ビ蘇遊ノ議論ハ皆王氏外臺祕要ノ中ニ採録シタモノデアアル。

廣濟曰

「骨蒸肺氣、每至日晚、即惡寒壯熱、頰色微赤、不能下食、日漸羸瘦」

コレデ骨蒸ト肺氣ト連文デアツテ、欬嗽等ノ症候ガアルト云フコトガ解ル。
張文仲曰

「骨蒸、苦熱瘦羸、面目痿黃、嘔逆上氣、煩悶、短氣喘急、日晚便劇、不能飲食」
又曰。「骨蒸、欬、出膿」

救急方ノ骨蒸論ハ甚ダ詳シイ其言曰、

「漸々瘦損、初著盜汗、盜汗以後、即寒熱往來、寒熱往來以後、即漸加欬、欬後面色白、兩頰見赤、如臙脂色、團々如錢許大、左臥即右出、唇口非常鮮赤、若至鮮赤、即極重、十則七死三活、若此以後、加吐、吐後痢、百無一生、不遇一月死」

ソノ痢ハ肺癆末期ノ腸結核デアアル。

崔氏別錄ト云フ書ハ尙ホ面白イ事ヲ書イテ居ル曰、

「骨蒸病者、亦名傳尸、亦謂殭殍、亦稱伏連、亦曰無辜、……無問少長、多染此疾、嬰孺之流、傳注更苦、其爲狀也、髮乾而聳、或聚或分、或腹中有塊、或腦後近下兩邊有小結、多者乃至五六、或夜臥盜汗、夢與鬼交通、雖目視分明、而四肢無力、或上氣食少、漸就沈羸、縱延時日、終於溢盡」

腹ノ塊ハ腸間膜腺結核デアツテ、腦後下方兩側ノ小結ハ瘰癧デアアル。コレハ我國デ瘰癧ト肺癆ト全ク同種類ノ物ダト云フ事ヲ明ニ言ヒ出シタ第一人デアアル。歐洲ノ此ノ事ヲラエンチツク Laennec カラ始メテ言ヒ出シタノデ、コレハ十八世紀ノ末殆ド十九世紀ノ始マル時デアアルガ、崔氏ハ即チ崔知悌ト云フ人デ、唐高宗時代ノ人デ第七世紀ニ當リマスカララエンチツク氏ヨリ殆ド千二百年前ニ既ニ此ノ論ヲ發表シタノハ實ニ偉トスベク驚クベキモノデアアル。今代ノ醫學者ノ中デラエンチツクト云フ名ヲ知ラナイ人ガナイ、然カモ崔氏ガ其ヨリ千年以上モ前ニ既ニ同ジ論調ヲ唱ヘタコトハ西洋ニハ勿論、同文タル日本ノ學者ト雖モ恐ラクハ知ラナイオ方ガ多少居ルダロウト思ヒマス、ノミナラズ我國ノ醫學者且ツ結核病ヲ注意シテ居ルカタガタモ矢張り知テオラナイ人多イ、實ニ古人ニ對シテハ申シ譯ナイ事デアアル。

コレ迄ニハ結核病ニ色々名稱ヲ加ヘテ殫殫トカ伏連トカ云フコトガ一體ドウ云フ意味デアラウカ明瞭ナ説明ガナイ。ソレニ就イテ蘇遊ト云フ人ガ結核論文ヲ作テ其ノ中ニ詳シク説明トシテ定義ヲ下シタ、即チ曰

「傳尸亦名轉注、(傳屍トモ書ク)以其初得半臥半起、號爲殫殫、氣急效者、名曰肺痿、骨髓中熱、稱爲骨蒸、內傳五臟、名曰伏連、不解療者、乃至滅門」

コノ定義ヲ見レバ傳尸トハ結核病ノ總稱デ、殫滯肺痿骨蒸等ハソノ時期又ハ症候ニ從ツテ加ヘタ名稱ニ過ギナイデアル。「伏連」ト云フ意味ハ内傳五臟ト云フ事デアアルハ蘇氏ノ論ヲ讀ンデ初メテ解ル。唐ノ時代ニ結核ノ内臟轉移アルト云フ事迄ヲ觀察サレタノハ偉イデアアリマセンカ。

今度ハ宋ニ到ル。宋ノ時代ニハ結核ニ對スル觀念唐代ノ程進ンデナイガ、舉ルベキモノハ

嚴用和ノ濟生方デス、嚴氏ハ次ノ議論ヲ發表サレタ曰

「醫經所說諸虛百損難經所有五損不過因虛而致損也」

「醫經、載五勞六極之證非傳尸骨蒸之比多由不能衛生始於過用逆於陰陽傷於營衛遂成五勞六極之病焉」

「夫勞瘵一證爲人大患凡受此病者傳變不一積年染屋甚至滅門可勝嘆哉大抵合而言之曰傳尸別而言之曰骨蒸淹滯復連屍瘵勞瘵瘵毒瘵熱瘵冷屋食瘵鬼瘵是也」

ソレヲ見レバ嚴氏ハ虛損勞瘵ト傳尸骨蒸トノ根本的差異アルコトヲ力説シタノデ、即チ外臺祕要ニ比シテ慢性衰弱病ヲ傳染性ト非傳染性トニ分離スルコトハ一層旗幟鮮明デアアル。但シ彼ノ虛損勞瘵ノ中ニ結核病ト極メテ居ルモノガアル、而シテ骨蒸瘵瘵ノ中ニハ結核デナイモノモ入テ居リマス。コレハ結核病ノ症狀ハモトヨリ千態萬變ニシテ他ノ非結核性ノ慢性衰弱病ト嚴密鑑別スルコトハ心ズ顯微鏡、細菌學、血清學及ビ「レントゲン」線學者ノ發達以後ニナツテ始メテ其目的ヲ達スルコトガ出來ルノデ、彼ノ時ニハ止ムヲ得ナイノデアアル。

又宋ノ時代ニ聖濟總錄ト云フ書ガアル、彼ノ書物ノ中ニハ勿論虛勞ト骨蒸傳尸トヲ明ニ區別シテ居ルガ、更ニ骨蒸ノ中ニ別ニ骨蒸肺痿ト云フ病名ヲ創立サレテ、即チ結核病ハ人體ノ肺ノ外ニモヨク侵サレテ來ルト云フコトヲ認メテ居ツテソ

ハ肺ニ來ルモノヲ特ニ骨蒸肺痿ト云フ名ヲ擧ゲルハデアル。

又聖濟總錄ニハ普通肺病ノ分類ノ下ニモ肺痿ト云フ病名ガアツテ此ノ肺痿ト骨蒸肺痿ト對照シテ見ルト奇態ト云ハナケレバナラナイノハ其ノ兩方ノ肺痿ノ處方ハ全ク異ツテ居ツテ一ツモ同ジモノガ無イコトデアアル。即チ此ノ時代ノ醫者ハ結核病ト似テモ結核病デ無イ即チ非傳染性乃至無熱性慢性肺病ト眞ノ肺結核病トハ全ク異ナツタ治療法ヲモ立ツタ譯デアアル。

乃デ金元明清時代ニハ空論ガ多クテ新シイ發明ハ御座イマセン。

結 論

結核ヲ症候ニ由テ他ノ病氣ト明カニ區別シ、且ツ傳染病デアルコトヲ證認シ、他ノ類似ノ病氣ト全ク異ナツタ治療法ヲ確立シタコトハ唐ト宋ノ時代ニ完成シタモノデアリマス。現在ノ歐羅巴醫學デ結核ガ傳染病デアルコトヲ明ニ知ツタノハ僅ニ半世紀前ノコトデスカラ、縱ヘソレガ純粹ノ「エムピリー」デアルトシテモ既ニ第七世紀以前ニコレダケノ進歩シタ觀念ヲ持ツテ居タコトハ歷史的研究ノ上カラ面白イコトト思フノデ此ヲ話ヲ致シタ譯デアリマス。

稿後ニ於テ恩師佐多(愛彦)先生ノ披閱及ビ前輩有馬(賴吉)博士ノ竭力援助ヲ謹ンデ感謝ヲ表シマス。

(本稿ハ大正十四月十月第六回極東熱帶病學會ニ出演シタルモノデアル)。